

2. 火山の概況

(平成 16 年 7 月 29 日 ~ 平成 16 年 8 月 4 日)

浅間山では、地震活動がやや活発になり、火山活動度レベル（以下レベルと記載）を1から2に変更した。

三宅島では噴煙活動が継続し、多量の火山ガスの放出が続いた。

阿蘇山では熱的な活動が引き続き活発で、小規模な土砂噴出が継続した。レベルは2。

霧島山では御鉢の噴気活動はやや活発な状態が続いている。

桜島では降灰があった。

沖永良部島で硫黄鳥島の火山ガスによると思われる硫黄臭があった。

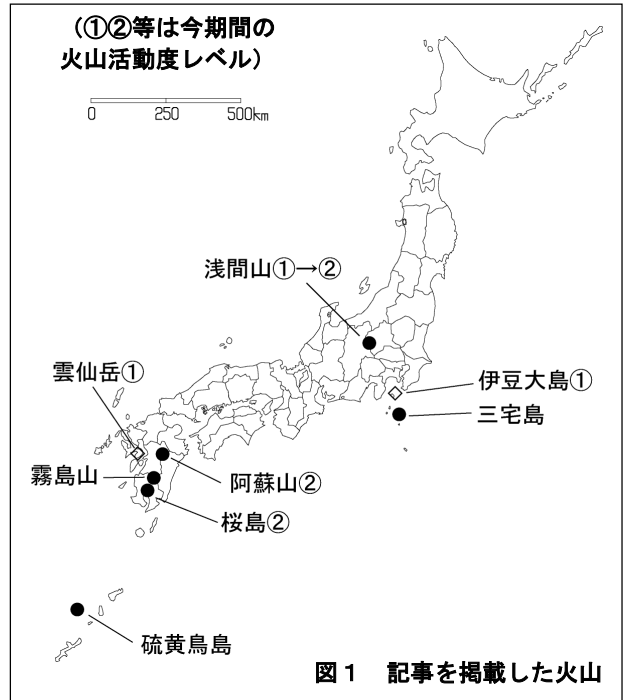


図1 記事を掲載した火山

表1 最近1か月に記事を掲載した火山

号	対象期間	浅間山		伊豆大島		阿蘇山		雲仙岳		桜島		三宅島	霧島山	薩摩硫黄島	諏訪之瀬島	硫黄鳥島
		レベル	記号	レベル	記号	レベル	記号	レベル	記号	レベル	記号					
32	7/29- 8/4	①→②	●	①	◇	②	●	①	◇	②	●	●	●			●
31	7/22- 7/28	①	●	①	◆	②	●	①	◇	②	◇	●	●			
30	7/15- 7/21	②→①	◆	①	●	②	●	①	◇	②	◇	●	●			
29	7/8- 7/14	②	●	①	◆	②	●	①	◇	②	◆	●	●	◆	◆	
28	7/1- 7/7	②	●	①	●	②	●	①	◇	②	▲	●	●	●	▲	

注1 記号の意味
 ▲：噴火した火山
 ●：活動が活発な状態にあるか、もしくは観測データ等に变化があった火山
 ◆：前期間まで▲や●で掲載し、その後の状況等を掲載した火山
 ◇：その他記事を掲載した火山
 ①②等の丸付き数字：火山活動度レベル

注2 本文の火山名の後ろの[噴煙・噴気・地震・微動・空振・地殻変動・熱・火山ガス等]は、变化があった観測データ項目を示す。

● 浅間山 [熱・噴煙・火山ガス・微動・地震] レベル1（静穏な火山活動）→レベル2（やや活発な火山活動）

火山活動のやや活発化に伴い、火山活動度レベルを変更した。

山頂火口内の温度は引き続き高い状態にある。群馬県林務部が火口縁に設置している赤外カメラによると、噴煙活動がやや活発になったことを反映し、火口底の高温部の面積がさらに拡大するのが確認されている。なお、前期間の7月25日夜に高感度カメラで確認された微弱な火映は、今期間は観測されなかった。

山麓の監視カメラでは、白色の噴煙が最高で火口縁上600mまで上がるのが観測された。

また、7月27日（前期間）～29日には松本市（浅間山の西南西約50km）で、30日には長野市（同北西約40km）で、硫黄臭が感じられたり、二酸化硫黄の濃度センサーに反応がみられたなどの情報が寄せられた。当時浅間山上空では台風第10号の影響で東よりの強い風が吹いており、山頂火口より噴出した二酸化硫黄が遠くまで流された可能性がある。

微小な地震の発生は、7月に入って少ない状態で推移していたが、前期間の7月26日以降やや多い状態となり、今期間は1日あたり25～53回発生した。

2003年4月以降発生している振幅の小さい微動は、7月31日以降、8月3日の6回を最高に毎日発生しており、期間中の合計が18回となった（前期間は2回）。それらの中には、2003年3月、4月に発生した微噴火の際に観測された微動と似た特徴をもつものも含まれている。

以上のように火山活動はやや活発化しており、31日に火山活動度レベルを1から2に変更した。

なお、地殻変動等他の観測データには特段の変化はなかった。

◇伊豆大島 レベル1（静穏な火山活動）

地震活動、噴煙活動、地殻変動等の観測データには特段の変化はなかった。

●三宅島 [噴煙・火山ガス・地震]

白色噴煙は山頂火口から連続的に噴出しており、期間中の高さの最高は火口縁上 500mであった。

3日に行った上空からの観測¹⁾では、二酸化硫黄の放出量は日量 2,700~4,600 トンで依然多い状態であった（図2）。

振幅の小さいやや低周波の地震は、1日あたり 14~37回とやや多い状態で推移した。

1) 航空自衛隊の協力による

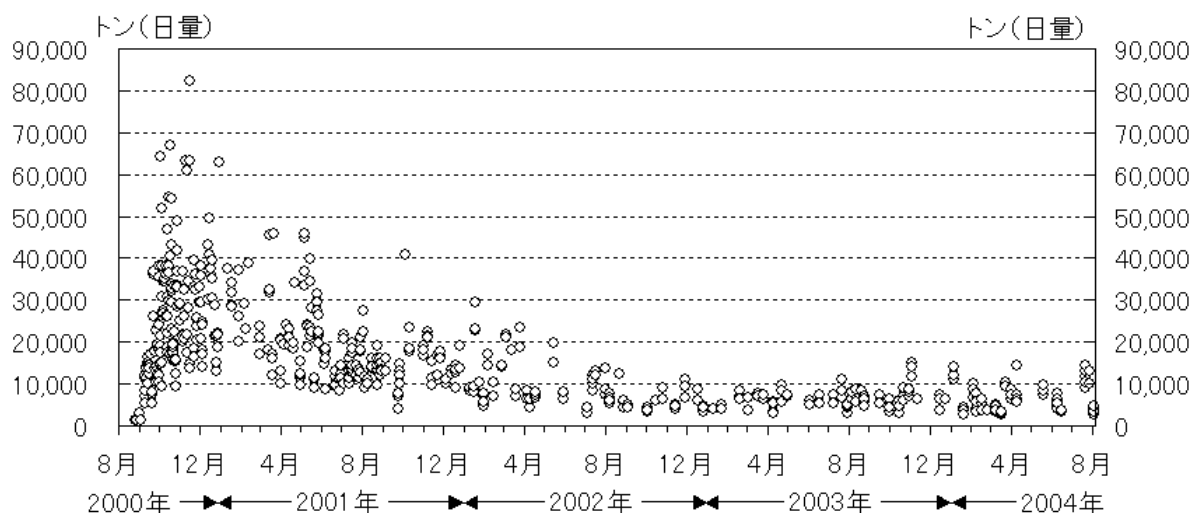


図2 三宅島 二酸化硫黄放出量の推移（2000年8月26日~2004年8月4日）

●阿蘇山 [熱・土砂噴出・微動] レベル2（やや活発な火山活動）

中岳第一火口では熱的な活動が引き続き活発で、小規模な土砂噴出が継続した。

7月29日と8月3日に阿蘇山測候所が行った現地観測によると、中岳第一火口の状況は、湯だまりの色は灰色、湯量は約3割、表面温度の最高は76℃（前期間は74℃）で、火口壁の最高温度は322℃（前期間は302℃）と依然高温状態にあった。湯量は減少傾向にある。また、土砂噴出が湯だまりの中央部、西側、南側及びその他数箇所で観測され、高さの最高は約5mであった。

期間中、火山性連続微動が継続した²⁾。孤立型微動は今期間 943回²⁾発生し、前期間（641回）より増加して、やや多い状態であった。

噴煙は白色で、噴煙の高さの最高は火口縁上 400m（前期間 700m）であった。

地殻変動等その他の観測データには特段の変化はなかった。

2) 期間中、約10時間の欠測あり。

◇雲仙岳 レベル1（静穏な火山活動）

地震活動、噴煙活動とも静穏であった。その他の観測データにも特段の変化はなかった。

●霧島山 [噴気]

御鉢火口の噴気活動はやや活発な状態が続いている。4日に噴気が遠望カメラで観測され、その最高は火口縁上 100mであった。

●桜島 [降灰] レベル2（比較的静穏な噴火活動）

期間中、噴火はなかったが（前期間もなし）、3日に鹿児島地方気象台（南岳の西南西約 11km）

で降灰が観測された（前期間はなし）。今期間の降灰量は0 g/m²（1平方メートルあたり 0.5g 未満の微量）であった。

●硫黄鳥島 [火山ガス・噴気]

沖永良部島（硫黄鳥島の南東約 65km）の住民から、30 日午前中同島で硫黄臭が感じられたとの通報があった。当時硫黄鳥島上空では北西～北北西の風が吹いており、硫黄鳥島の噴気が流されて発生した現象であった可能性がある。また、3 日夕方、沖永良部島より硫黄鳥島の方向に噴煙が見えるとの目撃情報があった。

4 日に海上保安庁第 10 管区海上保安本部が上空からの調査を実施した。それによると、島の北側及び中央部の噴気孔から噴気が上がっており、うち北側の噴気は火口縁上の高さ約 400m まで上がっていたが、特段、活動が活発化した様子はみられなかった。また、島の周辺の海域に変色水は認められなかった。

硫黄鳥島は、那覇市の北北東約 190km、沖永良部島の北西約 65km に位置する火山島である。以前より複数の硫気孔と噴気活動が認められている。有史後の噴火はいずれも爆発的で、20 世紀中には 1903 年、1959 年、1967 年及び 1968 年に噴火がある。1903 年には全島民が一時久米島に移住し、一旦帰島したものの 1959 年の噴火で再度全島民が島外に移住、1967 年の噴火で硫黄採掘者も撤退し、現在は完全な無人島である。

表 2 火山情報発表状況

火山名	情報の種類及び号数	発表日時	概要
浅間山	火山観測情報第 2 号	31 日 08:00	火山活動はやや活発な状態になった（地震活動がやや活発な状態で、噴煙量が多く火口内温度も高い状態）。レベルを 1 から 2 に変更。
三宅島	火山観測情報第 419 号 ↓（1 日 2 回発表） 火山観測情報第 432 号	29 日 09:30 ↓ 4 日 16:30	活動経過ほか（噴煙・地震・微動・空振・火山ガス・地殻変動の状況、上空からの観測結果、及び上空の風・火山ガスの移動予想）。
阿蘇山	火山観測情報第 39 号	30 日 11:00	火山活動は引き続きやや活発（湯だまりの高温状態継続、湯量約 3 割、小規模な土砂噴出が数カ所で発生、微動連続状態）。レベルは 2。